

## 第3回委員会における委員指摘対応表

## 1. 基本理念について

※第3回検討会にて事務局より、「緑をつなぐ、人と街をつなぐ」「緑の東京創造のフロントランナー」等を基本理念の案として提示。以下の意見などをいただいた。

主な意見	対応案
<p>【「つなぐ」の考え方について】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「緑をつなぐ」というネットワークの考え方とは異なり、<u>「緑が人や街をつなぐ」</u>媒体であることがわかる表現がよい。（横張委員長）</li><li>きれいな緑はできても、裏路地で<u>緑を愛でるようなつながりのある緑</u>が無い。緑がある生活、<u>緑を通して身近さや愛着が生まれる意識</u>を示せるとよい。（田熊委員、石垣委員、木村委員）</li><li>「つなぐ」は、パンデミックがあっても<u>緩やかに社会がつながるために緑を活用</u>する、という意図も意識できる重要なコンセプト。（浦嶋委員）</li></ul>	<p>【素案P. 26-27参照】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>緑が、様々なものをつなぐ手段であることが伝わる基本理念として、次の2案を検討した。（本日、委員の皆様にご意見いただきたい） 案① 緑がつなぐ、人・まち・未来 案② つながりを深める、未来につなぐ</li><li>サブフレーズの中で「緑豊かな首都東京の形成を先導する」と示すとともに、</li><li>文章の中で「まちの変化に柔軟に対応するマネジメント」や「変化にも果敢にチャレンジしていく緑施策の展開を構想」など、フロントランナーとしての自覚を行動を示す内容を記載した。</li></ul>
<p>【フロントランナーについて】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>つなぐ緑を創造し、それを維持し続ける<u>仕組みを作ることでフロントランナーたる</u>、という展開が良いのでは。（木村委員）</li><li><u>フロントランナーという自覚は、リスクをとってあえて実験をする</u>ということ。そのような区が千代田区であるという考え方が良い。（横張委員長）</li></ul>	

## 2. 将来像について

※第3回検討会にて事務局より、3つの将来像（①骨格の緑、②身近な緑、③マネジメント）を提示。  
3つ目の緑のマネジメントに関する将来像について、以下の意見などをいただいた。

主な意見	対応案
<p>【将来像③ 緑のマネジメントに関する将来像について】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• ただ維持していくのではなく、<u>前進、変化を許容するようなイメージ</u>を伝えたい。（重松委員）</li><li>• 「最適化」は効率性や費用対効果の意味を感じる。<u>多様さが許されたり、地域に応じた柔軟性</u>を感じる言葉が良い。（横張委員長、三友委員）</li></ul>	<p>【素案P. 29参照】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 前は「街と人の変化に応じて最適化を繰り返す緑のマネジメント」としていたフレーズを、次のように変更した。  「まちと人の変化を捉えて模索する 柔軟な緑のマネジメント」</li><li>• 文章中では、「地域の状況に則した」、「様々な変化を捉え、暫定的な手法を試行」など、柔軟なマネジメントの具体的なイメージを記載した。</li></ul>

## 3. 目標水準について

※第3回検討会にて事務局より、計画の目標水準の案を提示。以下の意見などをいただいた。

主な意見	対応案
<p><b>【目標水準について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緑被率が何%か、という目標の与え方だけでなく、<u>「どれだけ緑で楽しむ機会が増えたか」、「緑を体験できるか」</u>を図れると良い。（横張委員長、浦嶋委員、重松委員）</li> </ul>	<p><b>【素案P. 33-34参照】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 前は「緑の量」「緑の質」「区民参加」の目標を個々に示していたが、</li> <li>• 「緑を創出し、質を高め、人々に愛してもらおう・利用してもらおう」というストーリーの下で、目標水準の考え方を設定した。</li> <li>• 緑の創出に関する目標は、緑被率と「身近な緑地」の創出について設定。</li> <li>• 緑の質に関する目標は「身近な緑地」の整備にあたり、地域ニーズを把握するプロセスの実施を、アウトプットの指標として設定。</li> <li>• 「人々に愛してもらおう・利用してもらおう緑」に関する目標は、アウトカムとして、区民の緑に対する満足度を設定。</li> <li>• さらに、区民の緑地の利用機会を増やしてく視点から、今後アンケート等によって状況を把握し、設定する目標を仮設定した。</li> </ul>

## 4. その他

※その他、以下の意見などをいただいた。

主な意見	対応案
<ul style="list-style-type: none"> <li>「歩いて楽しむ」という要素は大事。<u>移動しながら緑を享受できる緑のネットワーク</u>が出来るとよい。(三友委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素案P. 30：基本方針2の中で「移動しながら都心の多種多様な緑を感じることでできる空間を形成」と記載。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>緑豊かな<u>居心地のよいサードプレイス</u>の創出が示せると良い(三友委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素案P. 31：基本方針4の中で「誰もが気軽に立ち寄り、利用し、居心地よく滞在することのできる…」と記載。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>平時には水の景観を活かして人を呼び、<u>防災的には雨水浸透機能を強化</u>することが重要。(浦嶋委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素案P. 30：基本方針3の中で、「豪雨時に雨水の流出を抑制する緑の確保」と記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li><u>グランドレベルでどのような緑の空間がある</u>とよいか、を示せると良い。(石垣委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置方針では、人々がどのように感じたり利用したりする緑かを記載。</li> <li>例えば、素案P. 41の緑の回廊軸では、「休憩スペースや緑陰の確保等を通じて、歩いて居心地の良い…」など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アジャイル型計画としての配置方針、緑の基本計画のあり方が必要になってきている。20年のタイムスパンの中で目標をつくらない、あるいはつくるとしてもぼやとした目標にしておいて、<u>常にPDCAを回しながら、その都度考えていく考え</u>方が必要。(横張委員長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素案P. 85-86：計画の進行管理等について記載。</li> <li>進行管理では、概ね5年ごとに施策を見直す旨を記載。</li> <li>さらに、緑施策の進化に向けてでは、最新の状況把握・データ分析、社会実験等を通じて取組みを進化させるとともに、制度や体制を弾力的に運用する旨を記載。</li> </ul>